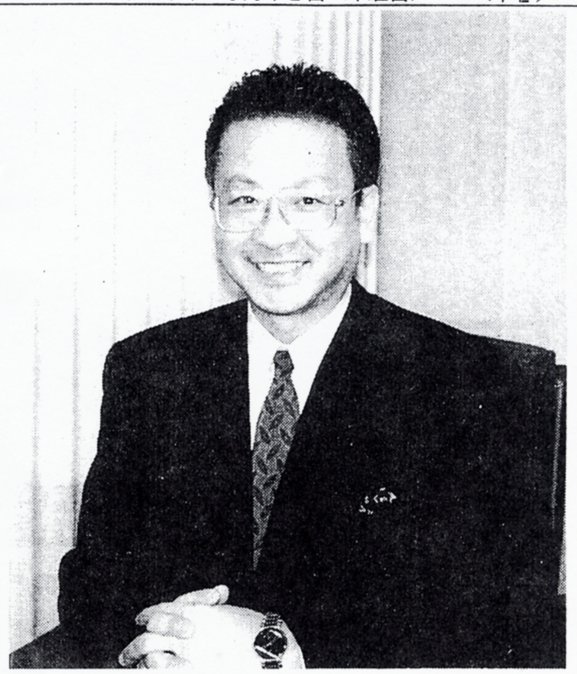
素直な心で地球にゴメン

環境問題に正面から取り組む

オゾンの四大効果　漂白・殺菌・脱臭・細胞賦活作用に優れる

テレゾンのオフィス



オゾンの仕事を続けてきて本当に良かった

ヒト

オゾン――。化学式O3の微青色の気体で、特有のにおいを持つことからギリシャ語のozein（におう）にちなんで命名された。消炎、鎮痛、解毒、殺菌、細胞賦活作用に優れており、リウマチ、ぜんそく、高血圧などの治病・健康増進のツールとしても利用され始めている。その一方でフロンガスの使用により、地球を取り巻くオゾン層が破壊されているという憂慮すべき事態も発生――。これが、地球環境保全の機運を盛り上げる端緒ともなった。こうしたなか、オゾン発生器の製造を手掛けているテレゾン。代表の澤正典さんは十年近く前、体調を崩したことを契機に、自らのために木製のオゾン発生器を作製。しばらく使い続けたところ、当時、原因不明の虚脱感に襲われ「十分間と同じ姿勢でいられなかった」という体調が元に戻り、健康体になった。それ以来、これを本業とし、研究を重ねている。「素直な心で地球にゴメンといえた日から僕の使命が変わっていった。青空や美しい水は地球のほほ笑みのサイン。笑顔の地球に抱かれて暮らす人間として快適な暮らしを提案したい」という澤さん。春のぽかぽかしたころびが、そこここで感じられるようになった昼下がり、氏の事務所を訪ねた。

テレゾン社長　澤　正典さん

プロフィール

昭和二十一年八月十一日生まれ。東京都出身。東海電波高等学校を卒業して日立家電サービスに入社。四十五年、今泉電機に入社。一年後、常務に就任する。五十八年、五月にテレゾンを創業、翌年八月に法人化している。製品は一般家庭用、美容用、医療用で七機種を持つ。資本金一千万円で従業員十人。前橋市小相木町で奥さんと二人暮らし。

高崎市新町一三四―一☎0273～25～6011

成功するまで続けることです

テレゾンのオフィスは再開発が急ピッチで進むJR高崎駅西口オフィスビルの一角にある。大通りからは少々、外れているものの、絶え間なくビジネスマンや買い物客が往来している賑やかな場所だ。

しかし、事務所のドアを一歩入ると、なぜかホッとする。空気が柔らかい――とでも形容したらいいだろうか。

「原因はオゾンです。森林や高山、海岸などへ行くと、ある種の清涼感のようなものを感じることができますよね。こうした場所には大気中にオゾンが多く含まれていて、そのような感じを受けるのですが、この事務所でもオゾン発生器により同じような効果が得られるのです」

澤さんの口調や物腰からもオフィスの空気と同じような優しさが感じ取れる。

事務所の奥の水槽に目を移すと通常の五倍以上はあろうかと思える巨大な金魚。オゾンの安全性や水の汚れ、金魚特有の臭いを、どこまで抑えられるかという実験をするために一年飼っていたら、こんな状態になったのだという。

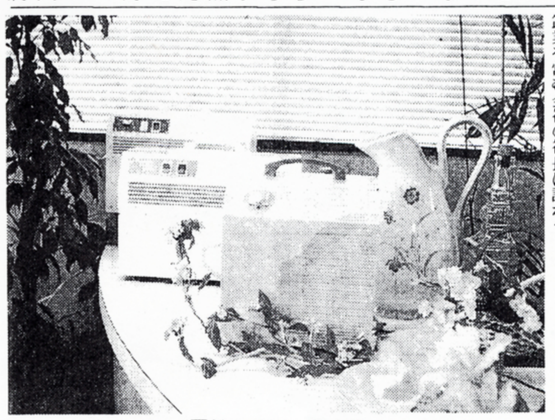
「オゾンには漂白、殺菌、脱臭、細胞の賦活という四大効果をはじめ、ストレスや肩こり、腰痛、リウマチなど様々な治療に成果を上げている。オゾンを皮下注射するオゾン療法を採用する医院もあります」

副作用がなく、幅広い疾病に効果があるため第三医学として各方面から注目を集め始めている。

東京出身の澤さんが群馬に足を踏み入れたのは昭和四十五年。縁あって大泉町で電材卸業を営む会社の社長に請われたもので、二十七歳で常務に就任した。順風満帆といったところだった。

しかし、数年後、原因不明の病が澤さんを襲う。

「立っていることもつらいくらいの虚脱感がありましたね。その頃、凝っていたゴルフもハーフでさえ、まともに歩けない有り様で・・・。カートにしがみついてラウンドしていました（笑）」



同社のオゾン発生器

そんなとき、大手電機メーカーに勧める友人がオゾン発生器を持ってきた。オゾン風呂にして試したところ、それまでの不調が嘘のようになり、元通りの健康体を取り戻した。ところが、その機械を返すと、また以前の状態に――。この機械は当時でも数百万円という高価なもの。とても購入することはできない。

「では自分で作ってみよう」

これがオゾン発生器を製造する発端となった。

オゾンは、乾いた酸素ガスの中で無声放電を行うと得られる。日夜、暗室の中で良い放電が得られるようにと実験を重ねた。実験の数だけ失敗も積み上げられた。

「失敗の数では誰にも負けないと思いますよ（笑）。でもね、今それが私にとっても会社にとっても、すごく大きな財産になっているんだな。失敗の数だけデータがあるということですからね」

半年がかりで試作品が完成。あっという間に口コミで噂が広がり、一カ月間で二十台を製造した。

この年、最愛の母をガンで亡くした。逆にこのことが、澤さんを独立に導くことになる。

「母が天に召されて、その目が僕の全てを見通していると感じた時から肩の力がすっと抜けたような気がしました。もう心配をかける人もいなくなったんだと・・・」

素直な願いが、泉のように湧いてきた。テレゾンの設立である。

当時は、今ほど環境問題についていわれていなかった時期。時代の二歩も三歩も先を歩んでいたことになる。

「成功の条件を知っていますか。答えはひとつ、成功するまで続けることです。続けていれば必ず本物になる。ひとつのことを続けていれば誰にも負けない本物になる。お金のかかることよりもお金のいらないプロになれというのが私の持論です。真心にも工夫にもお金はいらない。続けること、それは人生のプロになることです」

継続は力なり――を実践する澤さんだが、楽しくなければ続かないということも身をもって知っている。

「私の会社では工員とはいわず〝パース・スタッフ〟と呼ぶ。出勤のときはスーツで、金曜日はフリーファッションの日と決めています。そして普段は私も従業員も『さん付け』で呼び合っています。簡単なことですが、こうしたことでも随分、楽しい気分になれるものです。社長として社員が喜んでもらえることは何んでもやっていこうと思っています」

この一環として三年前から続けていることがある。給料袋の中に〝社長の独り言〟として詩を添えているのだ。この中のひとつを紹介しよう。

夢に向かって

夢がある人の笑顔はとてもきれいだ
会う度に心が洗われるんだ
きっと大きな夢を目指して
歩いているからだね
その踏み出す一歩を人のせいにしていないから
失敗してもチャンス・チャンスと笑顔で言えるんだ
過去にこだわらない人は大きな未来との出逢いがある
夢は育てる事ができるんだ
誰かに話したりする事で一緒の夢を見る事だってできるんだ
僕の夢を話すから一緒に歩いて行かないか

澤　正典

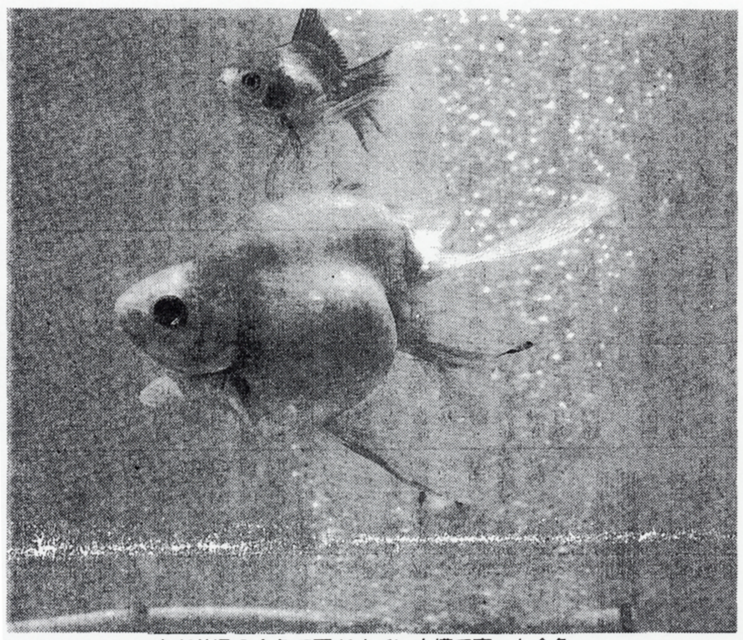
環境問題と真摯な態度で向き合う澤さんだが「地球を汚したのは自分達だ」という負い目があるのだという。こうした気持ちになったのは今から五年程前だ。

「素直な心で地球にゴメンと言えた日から僕の使命が変わっていった。青空や美しい水は地球のほほ笑みのサイン。笑顔の地球に抱かれて暮らす人間として快適な暮らしを提案したい。これ以上、地球は広くできないのだから――」

今月十八日から二十日まで東京・晴海で開かれる健康フェアに新型商品を出展する。『生命の噴水』と命名した噴水型タイプで美容室、エステティックサロン、ブティックなどでの受注を見込んでいる。

「オゾンに携わる仕事を続けてきて本当に良かった。自分の愛している会社や商品にちょっと距離を持って眺めたときに、それがさわやかな地球色に見えるようにとの願いを込めて仕事に取り組んでいきたいと思います」

澤さんが自分のために作った第一号の木製イオン発生器は今でもオフィスで元気に働き続けている。



上が普通の金魚で下がオゾン水槽で育った金魚

梅本鮫店
●御きもの各種
●婚礼用御衣裳
●オリジナル小物　ギフト
●ジュエリー
太田0276（代）
☎45-4725